

# 近代日本のルーツ 横須賀の歴史遺産

“守り・支え・伝える地盤の技術”

- ・日 時：8月8日（土）13:30～16:15（予定）
- ・会 場：ヨコスカ・ベイサイド・ポケット（横須賀芸術劇場小劇場）
- ・定員等：先着 400 人（入場無料、事前申込不要）
- ・主 催：横須賀市/地盤工学会関東支部 (<http://www.jiban.or.jp/kantou/group/rekishiiisan.html>)
- ・協 力：近代歴史遺産活用事業推進協議会
- ・問合せ先：横須賀市政策推進部文化振興課（046-822-8116）

横須賀製鉄所から富岡製糸場や生野鋳山、白壁兵舎等に伝わった技術と、今も使われ続けている幕末に着工した横須賀製鉄所第一号ドライドック、貝山丘陵の地下に存在する貝山地下壕、公園埋立地で公開中の第三海堡の最新の技術的な研究成果をご紹介したうえで、歴史遺産の継承について考えます。



- ① 基調講演（13:30～14:10）  
横須賀製鉄所から富岡製糸場・生野鋳山等に波及した技術と人の交流・・・正垣 孝晴
  - ② 研究報告（14:10～15:55）
    - ・今も使われ続けている横須賀製鉄所第一号ドライドック（30分）  
ー現状と、将来も使い続けるための課題ー・・・・・・・・・・・・・・・・渡邊 邦夫・藤井 幸泰
    - ・休憩（15分）
    - ・第三海堡の建設で使われた砂はどこから来たか？（30分）  
ードイツ人も予測できなかった液状化被害ー・・・・・・・・・・・・・・・・正垣 孝晴
    - ・貝山地下壕の地質構造と保存に向けた課題（30分）・・・・・・・・中山 健二
  - ③ 質疑応答と歴史遺産の継承について（15:55～16:20）
    - ・近代化遺産の保存・活用について .....
- 正垣孝晴・渡邊邦夫・藤井幸泰・中山健二

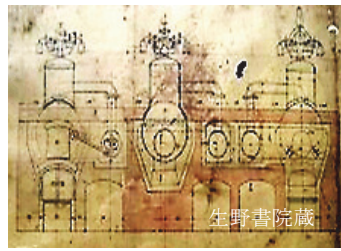
司会・進行：昌子 住江（NPO 法人アクションおっぱま）





横須賀製鉄所から富岡製糸場・生野鉱山等に波及した技術と人の交流 (正垣 孝晴; 防衛大学校)

横須賀製鉄所1号ドックから、富岡製糸場、生野鉱山、白壁兵舎等に伝わった技術と人の流れを紹介する。



① 富岡製糸場へのトラス構造 ② 白壁兵舎へのトラス構造 ③ 生野鉱山へのボイラーの設設図 ④ 神子畑への現存最古の铸铁橋

① 明治5年開場 (撮影協力 富岡市・富岡製糸場);平成26年世界遺産と国宝登録, ② 明治6年落成の陸軍最古の兵舎, ③ 明治6年横須賀造船所製図;日本国政府宛の刻印やフランス人設計者の署名もある。横濱造船所の他のフランス人設計者によって同じ日に設計された同じ型式のボイラーの図面も残されている。④ 明治16年頃架橋;昭和52年国指定重要文化財登録, ブレースにGlasgowの刻印がある。江川太郎左衛門が係わり, 横須賀製鉄所で製造されたとする覚書がある。

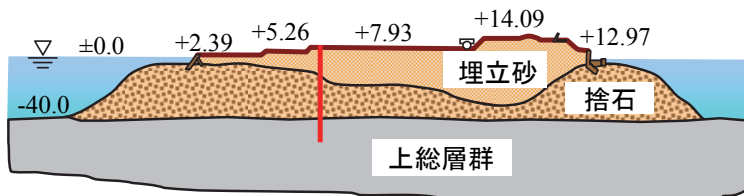
今も使われ続けている横須賀製鉄所第一号ドライドック —現状と, 将来も使い続けるための課題— (渡邊 邦夫; 埼玉大学, 藤井 幸泰; 深田地質研究所)

第一号ドライドックは, 建設後約150年が経過した現在も艦船修理に使われており, 貴重な「生きた産業遺産」である。この遺産を後世に残すためには, ドックの構造物や海水侵入遮断機能等の健全性を把握する事が大事である。三次元形状把握と漏水量測定を通じてその健全性を診断した結果を紹介する。



第三海堡の建設で使われた砂はどこから来たか? —ドイツ人も予測できなかった液状化被害— (正垣 孝晴)

第三海堡で使われた砂は, 伊勢町・久里浜・富津の砂と同じ粒径であることが示される。レンネ少佐の指導で40m近く埋立てた砂地盤は, 関東大震災で液状化して, 海堡の機能を停止した。地盤工学の最新の研究成果を紹介する。



(第三海堡完成時の予想縦断面図)



第三海堡復元鳥瞰図; (国土交通省東京湾口航路事務所による)

貝山地下壕の地質構造と保存に向けた課題

(中山 健二; 川崎地質 (株))

貝山丘陵の地下には, 横須賀海軍航空隊によって設けられた軍事施設である貝山地下壕が3地区, さらに, 丘陵周辺部には横坑が多数存在する。これらは2011年の東日本大震災においても大きな被害はなく, 保存状態は良好である。地層は北向きの緩傾斜で主として凝灰岩と砂岩が互層状に分布する。貝山丘陵を最大限利用した地下壕配置, 地質構造との関係, 当時の施工方法, 公開中の類似地下壕の情報に加え, 保存に向けた課題を紹介する。

右写真: 丘陵南側斜面  
手前は切土面露頭, 背後に横坑 (内部にタンク油槽)

